

ハイブリッド授業に対する障害学生のニーズに関する調査研究

菊池 哲平*

Research on the needs of students with disabilities for hybrid classes

Teppei KIKUCHI

(Received October 27, 2021)

1. 問題と目的

2020年に始まったコロナ禍は、大学における授業の形態を大きく変化させる契機となった。感染防止のために多くの大学でオンラインによる授業が行われたことは、従来の対面型授業以外に大学での学びを進める具体的方法を示すことになり、円滑なオンライン授業を可能にする設備整備や教員のノウハウも蓄積されてきた。当初はオンライン授業の質的な問題から受講者と授業者の両方から不満が噴出していたが、徐々にオンライン授業のメリットも指摘されるようになってきている。早稲田大学(2021)の調査では、春学期において31.8%だった学生の満足度が秋学期では52.1%に上昇していることが明らかになった。また東京大学大学経営・政策研究センター(2021)による大学教員側に対する調査からもオンライン授業が有効な学びの手段であると認識されつつあることが報告されている。

一方で、各種の障害のある学生(以後、障害学生)にとっては、オンライン授業はポジティブな面とネガティブな面を兼ね備えたものであることが指摘されている。佐々木・藤原・佐藤・村田・高橋・竹田(2021)は障害学生へのオンライン授業に対する調査を行い、「教師や自宅など場所を問わずにアクセスできること」「動画教材に時間を問わずアクセスできること」といった利点がある一方、「目が疲れた」「集中力が続かなかった」といった困った点が挙げられたことを報告している。また障害学生の中には「配慮の調整におけるコミュニケーションが上手いいかないこと」や「教員が障害学生の存在を認識できないこと」などの障害からくるニーズに関する意思疎通の課題を挙げるものいた。総評として佐々木ら(2021)は「すべての障害分類においてオンライン授業の利点が示されており、学習のユニバーサルデザイン化に向けて重要な役割をオンラインと

いう道具が果たすと期待できる」としている。したがって「目の疲れ」や「集中力が続かない」といったオンライン授業におけるネガティブな側面が解決されることが条件だが、コロナ禍が収束した後においてもオンライン授業のノウハウが活用されることが望まれよう。

コロナ禍が退潮していくにつれて、従来の対面授業を再開する大学が増えてきているが、様々な障害のある児童・生徒・学生の学修支援として、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業が行われることは大きな意義があろう。例えば対面またはオンラインでの受講を選択可能な「ハイフレックス型授業」は、身体障害のある児童・生徒・学生にとって通学あるいは教室移動などでの困難を大きく解消する。また発達障害など学習に様々な困難を抱える児童・生徒・学生にとっては、授業動画を再度視聴できたり途中で休憩を挟むことが可能になるなど、学習成果そのものに良い効果をもたらすと考えられる。また不登校など、実際の対面授業に心理・情緒的な側面から参加が難しい児童・生徒・学生等に対しても、オンラインでの受講を可能にすることは学習保障の観点から重要である。

そこで本研究では各種の障害学生を対象にハイブリッド授業に対するニーズを調査することを目的とする。コロナ禍によってほとんどの大学でオンライン授業が行われたことにより、それを受けた障害学生自身にもオンライン授業の利点と課題点が見えてきていると考えられる。それを踏まえて、今後の障害学生の学習保障としてのハイブリッド授業の展開について、どのようなニーズがあるかを検討していく。

2. 方法

1) 調査対象者募集のためのスクリーニング調査

コロナ禍においてオンライン授業を受講した経験のある障害学生を募集するために、スクリーニング調査を行った。WEB調査会社に登録しているモニ

* 熊本大学大学院教育研究科

ターのうち、18～29歳の大学生（短大・専門学校含む）14,322名に対し、所属している大学・学部の種類、障害の有無（正式な医学的診断を受けていない場合を含む）及びその障害名を尋ねた。また何らかの障害を抱えているという場合は、自身の障害について大学に相談しているか、合理的配慮等を受けているかについても質問した。

スクリーニング調査の結果、1,297名（8.37%）が「何らかの障害を抱えている」、644名（4.16%）が「以前は抱えていたが、現在は完治（寛解）している」との回答があった（内訳は Table 1）。他の障害と比べ精神障害が多く48.8%を占めたため、以後の本調査では精神障害を独立させて検討を行うことにした。

自身の障害に関する大学への相談の有無については、LDのある学生のうち78.3%が大学に障害のことを大学（または教職員）に伝えていたのに対して、精神障害は48.9%しか伝えていなかった。どの障害であっても20～50%程度は自身の障害を大学に伝えておらず、相当数が潜在している可能性が伺えた。また合理的配慮の提供を受けているものは14.2%と少数であり、正式な手続きを踏んでいない配慮を含

めても28.9%に留まった。

2) 本調査の手続き

スクリーニング調査で「何らかの障害を抱えている（「その他」を選択したものを除く）」と回答した1,297名のうち障害学生（視覚障害・聴覚障害、肢体不自由、自閉スペクトラム症（アスペルガー障害を含む）、ADHD（注意欠如・多動症）、LD（限局性学習症）、慢性疾患・内部障害）を300名、精神障害学生（精神障害（統合失調症、うつ病、気分障害、不安障害など））を200名募集した。また比較群として一般学生（スクリーニング調査にて「現在・過去において障害を抱えていない」と回答した学生）を300名募集した。

3) 本調査のアンケート項目

本調査においては Table 3 に記す質問項目を採用した。なお、一般学生には Q②及び Q③の「ご自身の障害に関連して」という文言を削除し、Q⑤の「オンライン授業では自分の障害に合わせた支援を受けにくいと感じる」と「オンライン授業と対面授業では自分に必要な支援内容が異なると感じる」、及び Q⑧の「ハイブリッド授業は、自分の障害に合わせた支援・配慮が受けられないと思う」は設定しな

Table 1 スクリーニング調査にて「何らかの障害を抱えている」と回答した対象者の内訳（上段：実数、下段：%）

	小計	視覚障害 (盲・弱視)	聴覚障害 (聾・難聴)	肢体不自由 (上肢や下肢 の機能障害 など)	自閉スペクト ラム症(アス ペルガー障害 を含む)	ADHD(注意 欠如多動症)	LD(限局性 学習症)	精神障害(統 合失調症、う つ病、気分障 害、不安障害 など)	慢性疾患・内 部障害	その他*
抱えている	1297	65	92	54	156	312	35	686	127	139
	100%	5.0%	7.1%	4.2%	12.0%	24.1%	2.7%	52.9%	9.8%	10.7%
以前は抱えていたが、現 在は完治(寛解)してい る	644	20	19	51	95	97	34	261	80	45
	100%	3.1%	3.0%	7.9%	14.8%	15.1%	5.3%	40.5%	12.4%	7.0%
合計	1941	85	111	105	251	409	69	947	207	184
	100%	4.4%	5.7%	5.4%	12.9%	21.1%	3.6%	48.8%	10.7%	9.5%

*「その他(テキスト回答)」には他のカテゴリーに分類されるものも多かったが、起立性調節障害、HSP、吃音、偏頭痛、花粉症、などの回答もあった。

Table 2 「所属している大学や学校に、自身の障害について相談をしていますか」への回答

	回答者数	%
自分の障害について大学・学校の担当部署(障害学生支援担当など)に伝えており、 学習や学生生活についての相談をしている	308	15.9%
自分の障害について大学・学校の担当部署(障害学生支援担当など)に伝えてはいるが、 学習や学生生活について特に相談はしていない	236	12.2%
自分の障害について大学・学校の教職員(担当教員など)に個人的に伝えており、 学習や学生生活についての相談をしている	225	11.6%
自分の障害について大学・学校の教職員(担当教員など)に個人的に伝えてはいるが、 学習や学生生活について特に相談はしていない	173	8.9%
自分の障害について大学・学校側には伝えていないが、 学習や学生生活についての相談はしている	108	5.6%
自分の障害について大学・学校側に伝えておらず、 学習や学生生活についての相談もしていない	878	45.2%
その他	13	0.7%

Table 3 本調査の設問及び回答方法

No	設問	項目と回答方法
①	2020年以降のオンライン授業の受講経験	形式ごとに複数選択
②	過去のオンライン授業で良かったと感じた点	佐々木ら(2021)を参考に13項目を作成、複数選択
③	過去のオンライン授業で困ったと感じた点	佐々木ら(2021)を参考に16項目を作成、複数選択
④	オンライン授業に対するイメージ	6項目・5件尺度
⑤	リアルタイムオンライン授業と対面授業のどちらが受けやすいか	受講者数の規模や講義・演習・ゼミ・個人指導別に7項目5件法
⑥	オンデマンドのオンライン授業と対面授業のどちらが受けやすいか	受講者数の規模別に3項目5件法
⑦	ハイブリッド授業に対するニーズ	7項目・7件法
⑧	コロナ収束後のハイフレックス授業で対面・オンラインのどちらを選択するか	受講者数の規模や講義・演習・ゼミ・個人指導別に7項目、5件法(その他あり)

Table 4 オンライン授業の受講経験 (複数選択可、上段：実数、下段：%)

	障害学生 (n=300)	精神障害学生 (n=200)	一般学生 (n=300)
リアルタイム型のオンライン授業 (Zoom等による双方向オンライン授業)	201 67.0%	146 73.0%	218 72.7%
オンデマンド型のオンライン授業 (動画視聴によるオンライン授業)	169 56.3%	125 62.5%	187 62.3%
対面授業とオンライン授業のハイブリッド型授業	143 47.70%	111 55.50%	160 53.3%
資料配布型のオンライン授業 (音声付きデータのない、動画以外の資料によるオンライン授業)	111 37.0%	82 41.0%	105 35.0%
オンライン授業を受けたことがない	37 12.30%	25 12.50%	36 12.0%

かった。

4) 調査時期

本調査の実施は2021年12月中旬であった。回答を募集して設定した人数に到達した時点で実施終了となった。

3. 結果

1) オンライン授業の受講経験

障害学生のうち12.3%、精神障害学生のうち12.5%が「オンライン授業を受けたことがない」と回答していた。

受講した経験のある場合、Zoom等のテレビ会議システムを用いたリアルタイム双方向型のオンライン授業を受けた経験が最も高く、ついでオンデマンド型、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業¹、資料配布型のオンライン授業の順で受講経験があった (Table 4)。

2) オンライン授業の利点

いずれかのオンライン授業の受講経験がある対象者に対し、「過去に受けたオンライン授業で、対面授業よりも良かったと思う点」について選択肢から選んでもらった (Table 5)。

3) オンライン授業で困ったこと

いずれかのオンライン授業の受講経験がある対象者に対し、「過去に受けたオンライン授業で、困ったことや課題に感じたこと」について選択肢から選んでもらった (Table 6)。

4) オンライン授業に対するイメージ

対象者全員 (オンライン授業未経験者含む) に対してオンライン授業へのイメージについて尋ねた (Table 7)。 χ^2 検定の結果、「オンライン授業の方が身体的・精神的負担が大きいと感じる」で3群の間に有意差があり ($\chi^2(8)=19.12, p<.05$)、一般学生は「全くそう思わない ($z=-3.29, p<.01$)」が少

ハイブリッド授業に対する障害学生のニーズに関する調査研究

Table 5 「過去に受けたオンライン授業で、対面授業よりも良かったと思う点」(複数回答可)

	音声認識機能により自動で字幕が提供されること(Youtubeの機能やUDToolの利用)	映像(カメラ)が任意でON / OFF できること	音声(マイク)が任意でON / OFF できること	チャットが使えること	画面共有が使えること	「手を挙げる」「挙手」機能があること	音量が変更できること	資料が電子媒体で提供されること	動画教材を任意で再生・停止でき、再生速度が変更できること	動画教材に複数回アクセスできること	動画教材に時間を問わずアクセスできること	教室や自宅など、場所を問わずアクセスできること	授業の課題やレポートが電子媒体で提出可能なこと	その他	あてはまるものはない	全体	
全体	35 13.3%	85 32.3%	81 30.8%	72 27.4%	42 16.0%	64 24.3%	69 26.2%	55 20.9%	84 31.9%	87 33.1%	87 33.1%	108 41.1%	89 33.8%	3 1.1%	44 16.7%	263 100%	
障害学生	視覚障害(盲)	5 45.5%	1 9.1%	4 36.4%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	0 0%	2 18.2%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	0 0%	0 0%	11 100%	
	視覚障害(弱視)	6 30.0%	12 60.0%	11 55.0%	9 45.0%	7 35.0%	6 30.0%	9 45.0%	6 30.0%	8 40.0%	8 40.0%	8 40.0%	8 40.0%	0 0%	1 5.0%	20 100%	
	聴覚障害(難聴)	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	3 42.9%	3 42.9%	3 42.9%	2 28.6%	2 28.6%	0 0%	0 0%	7 100%
	聴覚障害(難聴)	6 19.4%	17 54.8%	17 54.8%	14 45.2%	8 25.8%	10 32.3%	16 51.6%	7 22.6%	11 35.5%	10 32.3%	9 29.0%	9 29.0%	11 35.5%	0 0%	2 6.5%	31 100%
	肢体不自由(上肢機能障害)	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	3 37.5%	4 50.0%	0 0%	1 12.5%	1 12.5%	3 37.5%	2 25.0%	3 37.5%	0 0%	1 12.5%	8 100%
	肢体不自由(下肢機能障害)	1 7.7%	3 23.1%	3 23.1%	4 30.8%	3 23.1%	6 46.2%	3 23.1%	1 7.7%	2 15.4%	2 15.4%	2 15.4%	6 46.2%	3 23.1%	0 0%	2 15.4%	13 100%
	肢体不自由(上下肢機能障害)	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	3 37.5%	5 62.5%	3 37.5%	0 0%	0 0%	8 100%
	肢体不自由(他の機能障害)	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	3 37.5%	3 37.5%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0%	0 0%	8 100%
	慢性疾患・内部障害	2 7.7%	7 26.9%	6 23.1%	6 23.1%	4 15.4%	7 26.9%	6 23.1%	3 11.5%	5 19.2%	7 26.9%	12 46.2%	12 46.2%	11 42.3%	0 0%	7 26.9%	26 100%
	発達障害(ASD:自閉スペクトラム症)	10 19.2%	13 25.0%	11 21.2%	15 28.8%	4 7.7%	13 25.0%	16 30.8%	16 30.8%	23 44.2%	22 42.3%	22 42.3%	29 55.8%	21 40.4%	0 0%	8 15.4%	52 100%
	発達障害(ADHD:注意欠如・多動症)	9 10.2%	33 37.5%	35 39.8%	33 37.5%	14 15.9%	30 34.1%	31 35.2%	28 31.8%	42 47.7%	43 48.9%	39 44.3%	49 55.7%	41 46.6%	2 2.3%	11 12.5%	88 100%
	発達障害(SLD:限局性学習症)	2 16.7%	2 16.7%	2 16.7%	4 33.3%	3 25.0%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	7 58.3%	6 50.0%	5 41.7%	4 33.3%	4 33.3%	0 0%	3 25.0%	12 100%
	全体	8 4.6%	72 41.1%	63 36.0%	38 21.7%	18 10.3%	34 19.4%	34 19.4%	21 12.0%	48 27.4%	58 33.1%	60 34.3%	97 55.4%	71 40.6%	2 1.1%	30 17.1%	175 100%
	統合失調症等	0 0%	8 72.7%	8 72.7%	6 54.5%	3 27.3%	3 27.3%	6 54.5%	4 36.4%	6 54.5%	6 54.5%	6 54.5%	7 63.3%	6 54.5%	0 0%	2 18.2%	11 100%
うつ病、双極性感情障害等の気分障害	3 3.2%	41 44.1%	37 39.8%	22 23.7%	11 11.8%	19 20.4%	19 20.4%	13 14.0%	28 30.1%	34 36.6%	36 38.7%	58 62.4%	47 50.5%	2 2.2%	14 15.1%	93 100%	
不安障害、強迫性障害等の神経症性障害	1 1.3%	38 48.1%	34 43.0%	22 27.8%	8 10.1%	13 16.5%	21 26.6%	13 16.5%	23 29.1%	30 38.0%	30 38.0%	47 59.5%	33 41.8%	1 1.3%	15 19.0%	79 100%	
摂食障害、睡眠障害等	5 12.8%	19 48.7%	17 43.6%	12 30.8%	7 17.9%	12 30.8%	11 28.2%	8 20.5%	13 33.3%	15 38.5%	14 35.9%	20 51.3%	17 43.6%	1 2.6%	5 12.8%	39 100%	
その他の精神障害	0 0%	10 50.0%	9 45.0%	5 25.0%	2 10.0%	7 35.0%	6 30.0%	2 10.0%	5 25.0%	8 40.0%	8 40.0%	11 55.0%	9 45.0%	0 0%	2 10.0%	20 100%	
一般学生	25 9.5%	114 43.2%	105 39.8%	34 24.2%	85 32.2%	65 24.6%	61 23.1%	85 32.2%	121 45.8%	124 47.0%	114 43.2%	150 56.8%	108 40.9%	1 0.4%	12 4.5%	264 100%	

なく、逆に精神障害学生は「全くそう思わない (z=3.21, p<.01)」が有意に多かった。

また「オンライン授業の方が学習成果が上がると思う」が有意であり ($\chi^2(8)=23.35, p<.01$), 障害

学生が「ややそう思う (z=3.71, p<.01)」が多く「どちらでもない (z=-2.56, p<.05)」が少ない, 精神障害学生が「ややそう思う (z=-2.16, p<.05)」が少なく、一般学生は「どちらでもない (z=2.94,

Table 6 「過去に受けたオンライン授業で、困ったことや課題に感じたこと」(複数回答可)

	オンライン授業で使われる各種オンラインシステムの操作方法がわからなかった	オンライン授業で使用するパソコン等を操作することが難しかった	資料が読めなかった(読み上げ機能が使えなかった)	難であった	動画・映像で表示される音声が聞き取れなかった	動画・映像で表示される字幕が見えなかった	動画・映像で付与される字幕が多すぎた	動画・映像に付与される字幕が読めなかった	動画・映像に付与される字幕が読めなかった	音声の聞き取りが難しかった	板書がなかった	話している人の顔や口元が見えなかった	参加している他の人の映像が見えない	目が見えなかった	先生との対話・質問がしにくかった	集中力が続かなかった	代筆等の人的サポートが受けられなかった	その他	特に困ったことや課題は感じなかった	全体
全体	32	30	20	17	13	35	14	12	41	17	16	23	76	54	89	5	6	71	263	
	12.2%	11.4%	7.6%	6.5%	4.9%	13.3%	5.3%	4.6%	15.6%	6.5%	6.1%	8.7%	28.9%	20.5%	33.8%	1.9%	2.3%	27.0%	100%	
視覚障害(盲)	6	0	2	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	
	54.5%	0%	18.2%	0%	0%	0%	9.1%	9.1%	18.2%	0%	0%	0%	9.1%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	
視覚障害(弱視)	4	5	2	0	2	0	1	4	3	4	1	3	9	5	5	0	0	4	20	
	20.0%	25.0%	10.0%	0%	10.0%	0%	5.0%	20.0%	15.0%	20.0%	5.0%	15.0%	45.0%	25.0%	25.0%	0%	0.0%	20.0%	100%	
聴覚障害(聾)	2	0	1	2	0	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	7	
	28.6%	0%	14.3%	28.6%	0%	14.3%	14.3%	0%	28.6%	14.3%	14.3%	0%	14.3%	0%	14.3%	0%	0%	0%	100%	
聴覚障害(難聴)	2	5	1	0	3	5	3	2	11	4	6	2	8	7	8	2	2	7	31	
	6.5%	16.1%	3.2%	0%	9.7%	16.1%	9.7%	6.5%	35.5%	12.9%	19.4%	6.5%	25.8%	22.6%	25.8%	7%	6.5%	22.6%	100%	
肢体不自由(上肢機能障害)	2	2	0	2	1	2	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0	1	1	8	
	25.0%	25.0%	0%	25.0%	12.5%	25.0%	0%	0%	25.0%	0%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0%	12.5%	12.5%	100%	
肢体不自由(下肢機能障害)	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4	1	1	0	0	5	13	
	15.4%	0%	0%	0%	7.7%	7.7%	0%	0%	0%	0%	0%	7.7%	30.8%	7.7%	7.7%	0%	0%	38.5%	100%	
肢体不自由(上下肢機能障害)	2	1	0	4	1	1	0	0	1	0	1	1	2	1	1	0	0	2	8	
	25.0%	12.5%	0%	50.0%	12.5%	12.5%	0%	0%	12.5%	0%	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0%	0%	25.0%	100%	
肢体不自由(他の機能障害)	2	0	1	2	0	2	0	0	2	0	1	1	3	0	2	0	0	0	8	
	25.0%	0%	12.5%	25.0%	0%	25.0%	0%	0%	25.0%	0%	12.5%	12.5%	37.5%	0%	25.0%	0%	0%	0%	100%	
慢性疾患・内部障害	2	4	0	1	0	1	0	0	2	0	1	3	6	3	8	0	1	13	26	
	7.7%	15.4%	0%	3.8%	0%	3.8%	0%	0%	7.7%	0%	3.8%	11.5%	23.1%	11.5%	30.8%	0%	3.8%	50.0%	100%	
発達障害(ASD:自閉スペクトラム症)	6	7	5	3	4	9	3	2	10	2	4	7	19	16	21	1	1	10	52	
	11.5%	13.5%	9.6%	5.8%	7.7%	17.3%	5.8%	3.8%	19.2%	3.8%	7.7%	13.5%	36.5%	30.8%	40.4%	2%	1.9%	19.2%	100%	
発達障害(ADHD:注意欠如・多動症)	14	14	6	5	3	14	2	2	12	7	8	8	33	25	55	2	5	14	88	
	15.9%	15.9%	6.8%	5.7%	3.4%	15.9%	2.3%	2.3%	13.6%	8.0%	9.1%	9.1%	37.5%	28.4%	62.5%	2%	5.7%	15.9%	100%	
発達障害(SLD:限局性学習症)	3	2	1	1	1	2	0	1	2	1	2	0	5	5	4	1	0	3	12	
	25.0%	16.7%	8.3%	8.3%	8.3%	16.7%	0%	8.3%	16.7%	8.3%	16.7%	0.0%	41.7%	41.7%	33.3%	8%	0%	25.0%	100%	
全体	21	13	4	5	8	8	3	4	16	14	9	23	62	47	70	0	5	52	175	
	12.0%	7.4%	2.3%	2.9%	4.6%	4.6%	1.7%	2.3%	9.1%	8.0%	5.1%	13.1%	35.4%	26.9%	40.0%	0%	2.9%	29.7%	100%	
統合失調症等	3	3	0	1	1	1	0	1	3	3	1	1	6	6	7	0	0	1	11	
	27%	27.3%	0%	9.1%	9.1%	9.1%	0%	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%	9.1%	54.5%	54.5%	63.6%	0%	0%	9.1%	100%	
うつ病、双極性感情障害等の気分障害	10	7	0	1	4	5	2	2	10	8	7	13	39	31	41	0	3	25	93	
	10.8%	7.5%	0%	1.1%	4.3%	5.4%	2.2%	2.2%	10.8%	8.6%	7.5%	14.0%	41.9%	33.3%	44.1%	0%	3.2%	26.9%	100%	
不安障害、強迫性障害等の神経症性障害	14	8	2	2	4	6	2	2	11	10	6	17	34	22	32	0	3	21	79	
	17.7%	10.1%	2.5%	2.5%	5.1%	7.6%	2.5%	2.5%	13.9%	12.7%	7.6%	21.5%	43.0%	27.8%	40.5%	0%	3.8%	26.6%	100%	
摂食障害、睡眠障害等	6	6	1	3	3	2	0	0	4	2	1	3	17	15	18	0	1	9	39	
	15.4%	15.4%	2.6%	7.7%	7.7%	5.1%	0%	0%	10.3%	5.1%	2.6%	7.7%	43.6%	38.5%	46.2%	0%	2.6%	23.1%	100%	
その他の精神障害	2	1	0	1	2	2	0	0	3	1	0	2	8	6	8	0	0	6	20	
	10.0%	5.0%	0%	5.0%	10.0%	10.0%	0%	0%	15.0%	5.0%	0%	10.0%	40.0%	30.0%	40.0%	0%	0.0%	30.0%	100%	
一般学生	53	31	17	18	35	71	19	11	57	26	15	37	101	70	97	-	9	30	264	
	20.1%	11.7%	6.4%	6.8%	13.3%	26.9%	7.2%	4.2%	21.6%	9.8%	5.7%	14.0%	38.3%	26.5%	36.7%	-	3.4%	11.4%	100%	

p<.01)が多かった。

「オンライン授業よりも対面授業の方が楽しいと感じる」($\chi^2(8)=18.19, p<.05$)では、一般学生では「どちらでもない($z=2.57, p<.05$)」が多く「全くそう思わない($z=-2.55, p<.05$)」が少なかったのに対して、精神障害学生は「全くそう思わない

($z=3.19, p<.01$)」が多かった。

「対面授業よりもオンライン授業の方が受けやすいと感じる」は有意差がなく、いずれの群においても同様の回答傾向だった。

また「オンライン授業では自分の障害に合わせた支援を受けにくいと感じる」($\chi^2(4)=6.89, p>.05$)

Table 7 オンライン授業に対するイメージ

	障害学生(n=300)					精神障害学生(n=200)					一般学生(n=300)				
	とても そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまり そう思わない	全く そう思わない	とても そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまり そう思わない	全く そう思わない	とても そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまり そう思わない	全く そう思わない
対面授業よりもオンライン授業は受けやすいと感じる	89	90	71	27	23	66	64	36	17	17	79	114	72	23	12
	29.7%	30.0%	23.7%	9.0%	7.7%	33.0%	32.0%	18.0%	8.5%	8.5%	26.3%	38.0%	24.0%	7.7%	4.0%
オンライン授業の方が身体的・精神的な負担が大きいと感じる	33	50	69	88	60	18	26	44	58	54	25	61	84	90	40
	11.0%	16.7%	23.0%	29.3%	20.0%	9.0%	13.0%	22.0%	29.0%	27.0%	8.3%	20.3%	28.0%	30.0%	13.3%
オンライン授業の方が学習成果が上がると思う	37	64	89	73	37	29	21	68	61	21	28	37	125	75	35
	12.3%	21.3%	29.7%	24.3%	12.3%	14.5%	10.5%	34.0%	30.5%	10.5%	9.3%	12.3%	41.7%	25.0%	11.7%
オンライン授業よりも対面授業の方が楽しいと感じる	56	81	80	48	35	33	57	46	27	37	43	88	101	43	25
	18.7%	27.0%	26.7%	16.0%	11.7%	16.5%	28.5%	23.0%	13.5%	18.5%	14.3%	29.3%	33.7%	14.3%	8.3%
オンライン授業では自分の障害に合わせた支援を受けにくいと感じる	31	62	94	64	49	17	27	66	58	32					
	10.3%	20.7%	31.3%	21.3%	16.3%	8.5%	13.5%	33.0%	29.0%	16.0%					
オンライン授業と対面授業では自分に必要な支援内容が異なると感じる	42	93	97	31	37	29	70	57	25	19					
	14.0%	31.0%	32.3%	10.3%	12.3%	14.5%	35.0%	28.5%	12.5%	9.5%					

及び「オンライン授業と対面授業では自分に必要な支援内容が異なると感じる ($\chi^2(4)=2.55, p>.05$)」は障害学生と精神障害学生の2群だけに行なった設問だが、どちらも群間に有意差は認められなかった。

5) オンライン授業と対面授業の受けやすさの違い

Fig.1 に Zoom を用いたリアルタイム型オンライン授業と対面授業, Fig.2 に授業動画を一定の期間内に視聴するオンデマンド型の授業と対面授業の受けやすさについてまとめた。総じて講義では受講者数が多い授業の場合、オンライン授業の方が受けやすいと回答しており、特に精神障害学生でその傾向が顕著であった。また「話し合い活動を伴う演習」及び「実技等を伴う演習」では障害学生がオンラインの方が受けやすいと回答していた。

6) ハイフレックス型授業における選択

コロナ禍が収束したと仮定し、オンラインと対面を選択できるハイフレックス授業が行われた場合にどちらを選択するかについて、Fig.3 に結果をまとめた。全ての授業形態で平均値が2.5を下回ったため対面での受講を選択する対象者が多かったが、講義及びゼミ指導については精神障害学生が一般学生よりもオンラインでの受講を選択する割合が高く、また話し合い活動を伴う演習では障害学生がオンラインを選択することが多かった。

7) ハイブリッド授業への期待やイメージ

コロナ禍が収束した後のハイブリッド授業に対する期待やハイブリッド授業へのイメージについて対象者の回答を Fig.4 にまとめた。

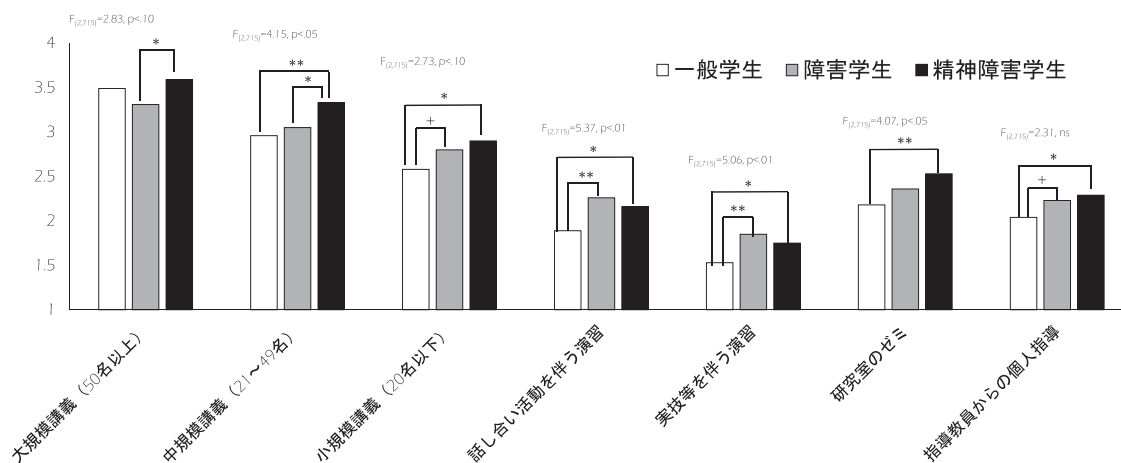


Fig. 1 「Zoom を用いたリアルタイム型オンライン授業と対面授業ではどちらが受けやすいか」

* 7件法 (高得点の場合、オンラインの方が受けやすい)

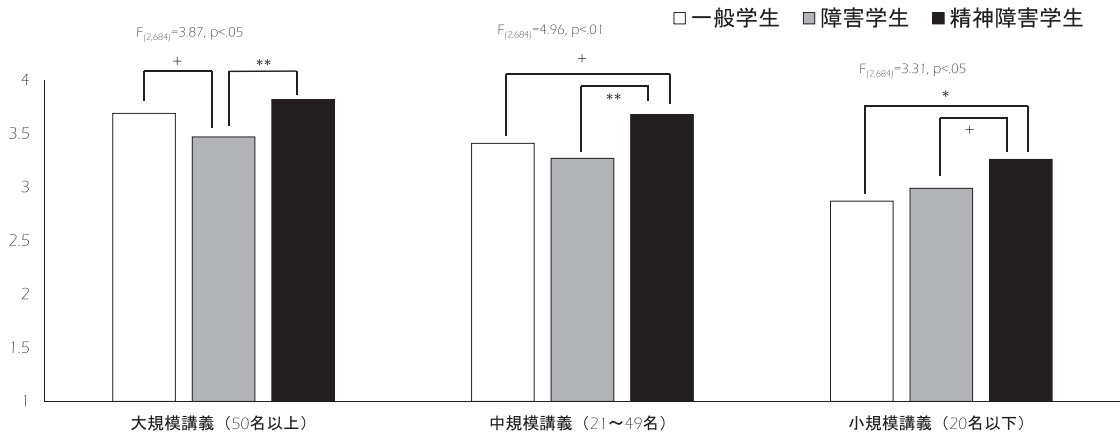


Fig. 2 「オンデマンド型オンライン授業と対面授業ではどちらが受けやすいか」
* 7 件法 (高得点の場合、オンラインの方が受けやすい)

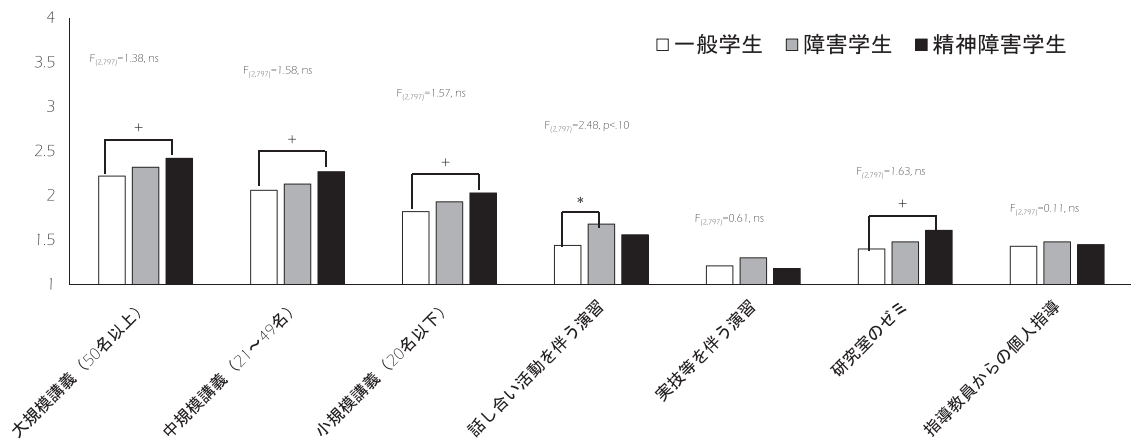


Fig. 3 「オンラインと対面を選択できるハイフレックス型授業の場合、どちらで受講するか」
* 5 件法 (高得点の方がオンラインを選択)

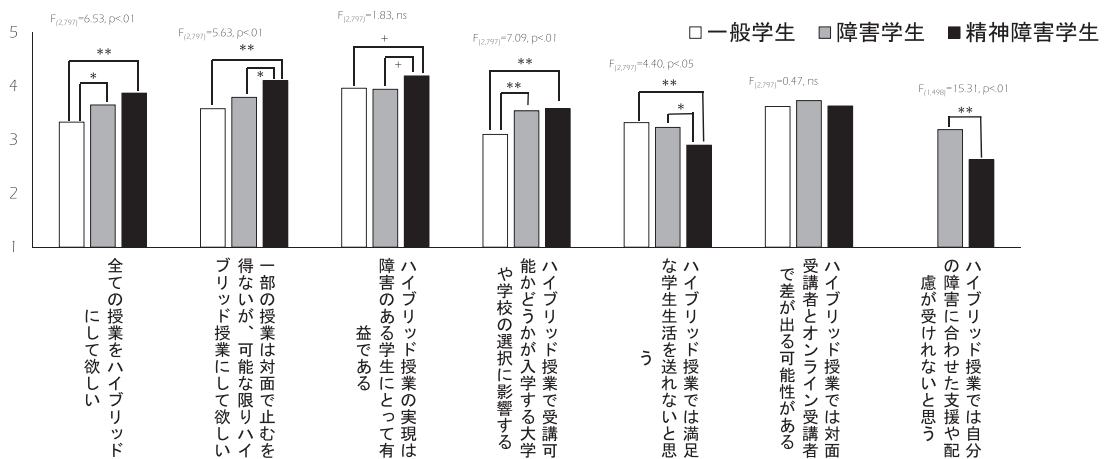


Fig.4 コロナ収束後のハイブリッド授業について
* 7 件法 (強くそう思うを 7 点、全く思わないを 1 点として換算)

「全ての授業をハイブリッドにして欲しい」及び「ハイブリッド授業で受講可能かどうかが入学する大学が学校の選択に影響する」で障害学生及び精神障害学生が一般学生よりも得点が高かった。また「ハイブリッド授業の実現は障害のある学生にとつ

て有益である」及び「一部の授業は対面でやむを得ないが可能な限りハイブリッド授業にして欲しい」では精神障害学生が他の 2 群よりも有意に高かった。一方、「ハイブリッド授業では満足な学生生活を送れないと思う」では一般学生及び障害学生の方が

精神障害学生よりも有意に高かった。また「ハイブリッド授業では自分の障害に合わせた支援や配慮が受けられないと思う」では精神障害学生よりも障害学生の方が高かった。

4. 考 察

調査の結果、障害学生及び精神障害学生のハイブリッド授業に対するニーズは一般学生よりも高く、特に精神障害学生が対面とオンラインを選択可能なハイフレックス授業の実現を強く望んでいることが明らかとなった。特に精神障害学生の場合、体調の波があることから、その日の体調によって選択可能なハイフレックス授業の有用性を高く感じているものと思われる。またオンデマンド型のオンライン授業のように、時間の制約を解除できる授業形態は精神障害学生への学習支援として効果が高いことがうかがえる。

一方、障害学生は抱えている障害の種類により授業形態（実技を伴う演習や話し合い活動など）によってはオンラインの方が受講しやすいと思われる。しかし、総じて対面での受講を希望する割合が高かったことから、学生生活の充実という観点から対面での受講を望んでいる側面もあると思われる。

また過去に受けたオンライン授業の経験から、障害種別ごとのメリット・デメリットが挙げられた。佐々木ら（2021）とほぼ同様に、「目が疲れた」「集中力が続かなかった」に多くの回答が寄せられた。特に発達障害学生にはその傾向が顕著であり、画面を見続けることによる疲労感の軽減や集中力を維持させるための工夫が必要であることがうかがえる。この点で、菊池・四ツ村（2021）は、授業動画の画質や音質がどの程度受講者の課題遂行に影響を及ぼすか、またストレス状態に影響を及ぼすかについて検討しており、授業動画の音質が悪い場合、特にADHD傾向のある学生には強いストレスがかかることが示唆されている。したがってハイブリッド授業を実施する際には、オンライン受講者に対して可能な限り画質や音質に配慮した動画が提供できるような施設整備が必要であるといえる。

障害学生支援としてハイブリッド授業を展開することを念頭に置いた場合、必要な機材や施設の整備、実施に係る教員側の負担軽減などのコスト面を検討することが今後の課題となるであろう。しかしなが

ら本研究で示した通り、障害学生とりわけ精神障害を抱える学生のニーズは高く、今後の学生支援としてハイブリッド授業を広く展開し、多くの科目でオンラインでの受講を可能にすることは障害学生の学習保障として重要である。各大学が積極的に設備整備や教員の負担を軽減する取り組みを進めることが望まれよう。

註

- 1 ただし、この場合のハイブリッド授業は授業回によって対面授業とオンライン授業を使い分ける形式のものも含められていると考えられる。

引用文献

- 菊池哲平・四ツ村成美（2021）ユニバーサルデザインの視点をふまえたオンライン授業ガイドラインの作成：授業動画の画質・音質に着目して。熊本大学教育学部紀要，70，
 文部科学省（2020a）新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況。（https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf）
 文部科学省（2020b）大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査。（https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf）
 佐々木銀河・藤原あや・佐藤剛介・村田淳・高橋知音・竹田一則（2021）障害のある学生への就学支援における学生本人による効果評価に関する調査研究（独立行政法人日本学生支援機構令和2年度（2020年度）プロジェクト研究研究成果報告書），https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_project/2020project/_icsFiles/afieldfile/2021/06/30/r2project_honbun.pdf（2021年10月16日閲覧）
 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター（2021）コロナ禍後の大学教育：大学教員の経験と意見。（<https://ump.p.u-tokyo.ac.jp/pdf/2021/コロナ禍後の大学教育.pdf>）
 早稲田大学（2021），2021年5月21日発表資料。（<https://www.waseda.jp/inst/ches/news/2021/05/17/3291/>）

付 記

本研究の一部は日本教育心理学会第64回総会にて発表された。